

長福寺だより

# 深命

第31号

発行 曹洞宗長福寺  
発行人 谷崎無奏  
〒 251-0012  
藤沢市村岡東 3-358  
TEL 0466-28-6915  
FAX 0466-28-8067

いのち深める



## 住職のひとりごと

### 宗教者として人権を考える

#### 差別と向き合う

あまり一般の方々には知られていないことですが、仏教と差別は、様々なかたちで関わり合っています。

まず第一に、本来仏教は、差別ということを否定する宗教です。一切衆生はみな平等であり、草木国土ですら、みな等しく仏性を持つていると考えています。

しかしそれとは裏腹に、仏教が差別の片棒をかついでいた時代もありました。それは江戸時代、明治時代、戦後すぐくからいまで続いていたと言われています。

平等を説くべき仏教が、差別を助長するような活動をしていた、その反省から、現代ではどの宗派でも、人権問題について真剣に取り組むようになっていきます。特に曹洞宗では、定期的に人権問題の研修会が開かれ、ほとんどの僧侶はその研修を受けています。そしてささやかながらも、現代社会で差別を無くしていくための活動に努めて

います。

「差別」という問題は、普段、生活している中では、あまり感じることはありません。また、ひと昔前に比べて、差別という問題が無くなりつつあるように見えるのも事実でしょう。

しかし現実には、現代において差別が無くなったわけでもないし、以前とは異なるかたちで、差別が広がっています。出自に関する差別、人種による差別、職業による差別、性的少数者に対する差別など、まだまだ根強く残っています。

私たちは、まず、現代においても差別があるということを理解し、自分自身と向き合うことを忘れてはならないと思います。そして決して人ごととして片付けてしまうことがないこと、無関心にならないことが大切だと思うのです。

#### ガラパゴス化しつつある仏教

曹洞宗神奈川第二宗務所主催の

人権擁護推進移動研修会が二月二十二、二十三日に一泊二日で開催され、私も参加をさせていただきました。

一日目は奈良県御所市にある水平社博物館で研修を行いました。水平社博物館は、水平社運動と人権に関する専門博物館で、一九二二年の全国水平社創立に際しての水平社宣言は、日本最初の人権宣言と言われているそうです。

曹洞宗は、この四十数年にわたり、真摯に人権問題に取り組み、個々の僧侶も人権問題を学び、深めて参りました。こうした学びは、多くの反省と共に未来への非常に貴重な財産となると思います。一宗教者として人権問題をどのように考え、どう行動するかは、現代において仏教者はどうあるべきか、寺はどうあるべきかという問題につながっていると思います。

その意味でも、曹洞宗がこのような貴重な学習機会を用意してくれることに大変感謝している次第です。

これからは家族のあり方の変化、超高齢化社会、外国人の増加、格差社会など、今までのお寺のあり方だけでは対応出来ない事柄がどんどん増加していきま

す。それはあたかも、仏祖の教えと一般社会との間のミゾがどんどん深まっているように見えます。今風の言葉でいうならば、仏教界がガラパゴス化しつつあるわけです。ガラパゴス諸島の生態系になぞらえたビジネス用語ですが、孤立した環境に適応し、安住すると、外の世界から取り残されてしまうだけでなく、外から入ってきたものに対応できず、最終的には淘汰されてしまうということだそうです。

### ■ 苦海浄土

水平社博物館の二階では、水俣病の展示室がありました。水俣病にも、多くの差別がありました。そしてこの水俣病に関する展示は、私に少年時代のおぼろげな記憶を呼び覚ますことにな

りました。

今年二月、石牟礼道子さんという方が亡くなられました。作家で、水俣病患者を主題に『苦海浄土』という著作を書かれています。水俣病患者の側に立たれてその原因である有機水銀をたれ流したチツソという会社を告発された方でした。

石牟礼さんは、一介の地元の主婦でありながら、水俣病の人達とともに、まさに不惜身命の精神で歩まれました。それは一種の宗教的な熱情とも言えるような心に動かされての行動だったのだろうと思います。

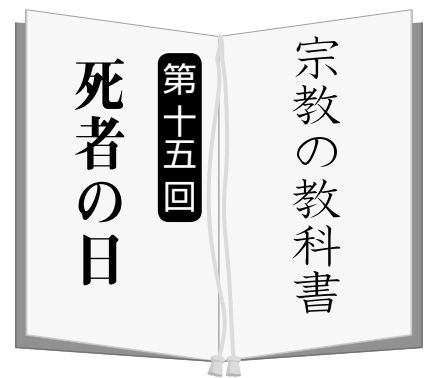
私は熊本出身であり、高校卒業まで熊本市で過ごしました。当時、熊本では、地元のこととして裁判闘争のニュースが繰り返し報道されていました。中学校の社会科教師だった父が、ニュースを見て、「あん人達は、あれが仕事だけん」と言ったことを覚えています。当時、多くの熊本県民も行政も、多くの宗教関係者も、そして私の父も母も、この裁判を冷ややかなまなざしで見ている、

水俣病の人達に寄り添うという感じは、あまり無かったように記憶しています。中学校か高校生だった私も今、思えばその一員でした。

今回の研修では、その事を思い出すとともに、人権問題を人ごとではなく自分自身の問題として捉え、縁ある方々にも伝えて行かなくてはならないと改めて感じました。

石牟礼さんの『苦海浄土』は、文学として、また人権を考える上でも、戦後文学の傑作の一つと言われているようです。皆様にもぜひ一読をおすすめいたします。

人権を学び、深めていくことは、社会との貴重な大きい橋ともなる可能性があると思います。そしてこうした問題意識を、縁ある方々に伝え、未来にも伝えていくことは、私たちの務めでもあります。仏祖の教えを学ぶと共に、人権とどう取り組むか、精進弁道の程が各々問われているように思うのです。



宗教ジャーナリスト  
薄井秀夫

ディズニーが描く死者の国

今年の春、『リメンバー・ミー』という映画を見ました。お子さんのいらっしやる方の中には、ご覧になった方も多いと思います。今年のディズニー映画のヒット作であります。

なぜ、この映画を見たかという、実は、ある石材店の方と一杯飲んだ時に、「おもしろいよ。日本もアメリカもいっしょなんだね」と言われたのがきっかけでした。その人の言うには、この映画の世界観が、日本の先祖供養と似ているということですね。

外国の話ですし（実際にはアメリカでなくメキシコが舞台）、アニメーションなので、感情移入ができないかなと半信半疑で見たのですが、どっこい、なかなか面白い映画でした。さすがディズニー、大人も子どもも楽しめるエンターテインメントです。

それはそうと何が日本の先祖供養と似ているかですが、この映画、主人公の少年ミゲルが、あの世に行って、亡くなった先祖達と交流するという話です。

ストーリーを詳しく書いてしまうと、これから見る人の楽しみを奪ってしまうので、それは控えますが、なんと書いてもモチーフとなっているあの世が面白い。

あの世、死者の国で、亡くなった人たちは、この世の暮らしと同じように様々なことを楽しみながら、時には悲しみながら生きています。しかも、家族はあの世に行っても家族同士、いっしょに暮らしています。

ただ姿は骸骨です。でも骸骨ですが、生きている時と同じようにおしゃれな服を着たり、お化粧をしたりしています。

それで〈死者の日〉が来ると、死者たちは、この世に向かって大移動を始めます。途中、関所がありますが、こっちの世界で家族が祭壇に遺影を飾っていないと、そこを通ることができません。家族が祭壇を通して、死者のことを大切にしていることが、この世にもどるための条件なのです。

この世に戻っても死者は、生きている人から見えないわけではありません。ただ、死者は生きている家族の姿を見守ることができ、生きている人はその気配を感じます。

また、あの世での暮らしは永遠ではなく、こっちの世界で覚えている人がいなくなると、消えていなくなってしまう。死者たちは、この第二の死を恐れていて、子孫が自分たちのことを忘れないことを願っています。

こんな死者の国で、少年ミゲルが、涙と笑いの冒険をするというのが、この映画です。

これはお盆？

映画を見ながら、正直、驚きました。ここまで、日本のお盆や先祖供養と同じような世界観とは思わなかったからです。

もちろん、映画はともカラフルで色の洪水のようですし、死者が骸骨の姿をしているという点も、日本とはかなり異なる感覚です。

しかし、〈死者の日〉に死者がこの世に戻ってくるのは、まるでお盆ですし、死者のことを忘れてしまうと、死者もあの世で消えてしまうというのは、故人がある世で安らかであることを祈って追善供養をしている我々日本人と共通点があります。

「なんだ、これは？〈死者の日〉って、メキシコでは本当にあるの？この世界観はつくり話？」と思いました。

映画の帰りの電車の中で、さっそく〈死者の日〉をスマートフォンで調べると、ありました、〈死者の日〉。

「死者の日はラテンアメリカ諸国における

祝日の一つ。特にメキシコにおいて盛大な祝祭が行われる」とあります。カトリックの万聖節（諸聖人の日）でもあるようです。

純粋なカトリックではなく、メキシコの民間信仰との混淆ですが、その点も、日本の民間信仰をベースに仏教的な意味づけが為されているお盆などと共通しています。

死者と私たちの絆

死者と私たち生きている人間との絆、これは、どんな国に行っても同じだということでしょう。

私たちは、いつだって、故人があので安らかであつて欲しいと願っています。そして、亡くなった故人のことを、いつまでも忘れたくないですし、どこかで見守っていて欲しいと思っています。

そして人は誰しも、死にゆく時に、残される自分の家族——妻や夫、子どもや孫——のことが気になります。

この死者と生者の絆は、どんな時代、どんな国でも変わらないものです。

仏壇で故人を想いながら手を合わせる、家族でいっしょにお墓参りに行く、こうした習慣は、故人の安らぎために行うものですが、同時に私たちの心にも安らぎを与えてくれます。

「死んだら終わり」と考えるのは自由ですが、どこかで故人とつながっていると感じていることで、人はあたたかい気持ちになれるはずで。

『リメンバー・ミー』は、亡くなった人とうとう向き合っていくかを、もう一度考えさせてくれる映画でした。

ただひと言、付け加えておかなくてはならないのは、このエッセイのように説教くさい映画では無いと言うことです。ディズニースーパーヒーローと笑いのエンターテインメント映画です。

ちなみに、映画館で私の隣の隣に座っていた若い女性が、映画の終盤で、感動のあまり号泣していたことも付け加えておきます。

夏フェス長福寺のご案内  
(夏送り演奏会)

八月二十五日(土)に、(夏フェス長福寺)を行います。ジャズ、ロック、ハワイアンなど、四々五バンドが演奏。ハワイアン料理の移動販売車も出店。料理・飲み物は持ち込みも自由です。過ぎゆく夏に、境内の緑の中をぬけてきた涼やかな風の中、音楽と料理を楽しみましょう。

場所 長福寺境内(深命窟道場)  
日時 八月二十五日(土)  
午後四時～七時

◎深命窟道場

絵画教室	小学生 中学生	毎週水曜日 午後四時半～六時 午後六時半～八時
書道教室	一般	毎週金曜日 午後二時十五分 ～三時四十五分
太極拳教室	子ども	毎週日曜日 午後四時～五時
空手教室		毎週月・木曜日 午後二時～三時半 午後六時～八時

ひとり暮らしでも安心して暮らせる地域を！

長福寺では、「一般社団法人エンディングサポート明光」を設立し、司法書士・行政書士・税理士などの協力を得ながら、縁の会会員や地域の方々の葬送支援をはじめとして、死後事務委任や身元保証、遺言・相続サポートなどを行っています。特に、頼るべきご家族がない方の中には、お亡くなりになった後の葬儀・納骨・供養がどうなるかが不安という方が少なくありません。もし気になる方がいらしたら、一度、ご相談いただければと思います。

一般社団法人エンディングサポート明光  
住所 藤沢市村岡東三―三五八(長福寺内)  
電話 〇四六六一二七一五二二六

平成三十年後期行事予定

七月 九日 (月)	先住忌十九回忌 午後二時より
七月三十日 (月)	施食会 午後三時
八月十三日 (月)	お盆会 午前十時、午後二時
八月二十五日 (土)	夏フェス長福寺 (夏送り演奏会) 午後四時～七時
九月二十三日 (日)	秋彼岸会 午前十時、午後二時
十二月八日 (土)	成道会 午後二時
十二月二十三日 (日)	大掃除 午前九時
十二月三十一日 (月)	年越し坐禅会 午後七時より
日曜法座	毎月第一日曜 午前八時より
土曜坐禅会	毎週土曜日 午後三時より五時まで